

K F C と尚絅学院大がつくる名取のメディア

ハナモモ通信

2015年12月



【発行】
河北新報普及センター
(KFC)
【協力】
尚絅学院大
名取市内
11,000部
【編集】
エリカ 教員
【部署】
電話 022(226)2391



学生に閉上の状況を説明する佐々木さん(右)＝閉上の日和山

被災地のいま伝える

ささき 佐々木靖子さん

河北新報社の学生インタビュンシップ(就業体験)「記者と駆けるインタビュー」に、参加する。仙台市内の大学生8人が11月23日、東北1年の東日本大震災による津波で被害を受けた名取市「ニター」を訪れました。名取市のかまほご製造「ささき」を営む佐々木靖子さんが案内役を務め、日和山や津波復興祈念資料館「閉上の記憶」を案内し、震災直後の様子や現状を説明。学生たちは熱心に耳を傾けてメモを取りました。



取材する学生(右2人)＝閉上さいかい市場

インタビュンシップは震災発生翌年の12年から始まり、学生は取材と執筆を体験し、学生記者として、これまで20人以上の学生が閉上を視察し、河北新報が運営するブログ「ニター」で公開しています。今年も、「閉上」について、地元の人々から話を聞いてほしい、そして伝えるしてほしい、と訴えかけています。「閉上」は、震災で被害を受けた地域に、復興の力になってほしい、という思いがあります。

「被災地の現状を伝えることは、被災地の人々から話を聞いてほしい、そして伝えるほしい」と訴えかけています。「閉上」は、震災で被害を受けた地域に、復興の力になってほしい、という思いがあります。

「理想の味」で育む絆 親子も参加
親子で理想のジェラートをイメージして豊かな想像力を言葉でもう体験イベントが11月29日、名取市野坂のサエラートショップ「ナチユリ」で開催されました。市内の小学生親子6組12人が参加、工房見学やジェラートの味見クイズなどを通じ笑顔あふれるイベントとなりました。



親子も参加した「理想の味」イベントの様子

活動理由を説明します。佐々木さんは「工場や店が流され、廃業も考えました」「社長である夫と葛藤しながらも再開を覚悟した」と土地のかさ上げ作業を進める重機の音が響く中、当時の状況を説明する手作りしたカメラを並べているとき、一度は諦めた商品をまた作ることに感謝し、涙を流したそうです。

活動理由を説明します。佐々木さんは「工場や店が流され、廃業も考えました」「社長である夫と葛藤しながらも再開を覚悟した」と土地のかさ上げ作業を進める重機の音が響く中、当時の状況を説明する手作りしたカメラを並べているとき、一度は諦めた商品をまた作ることに感謝し、涙を流したそうです。

「閉上」は、震災で被害を受けた地域に、復興の力になってほしい、という思いがあります。

「閉上」は、震災で被害を受けた地域に、復興の力になってほしい、という思いがあります。

「閉上」は、震災で被害を受けた地域に、復興の力になってほしい、という思いがあります。

「閉上」は、震災で被害を受けた地域に、復興の力になってほしい、という思いがあります。

「閉上」は、震災で被害を受けた地域に、復興の力になってほしい、という思いがあります。

「閉上」は、震災で被害を受けた地域に、復興の力になってほしい、という思いがあります。

チョコレート味のジェラートを作る子どもたち

住所は名取市野坂字南沖33の1。営業時間は10時から18時。木曜日は休。連絡先は022(226)2391。@hanamomocom

電液と紙のコラボ 「ハナモモ通信」

名取で活動する「ハナモモ通信」とコンビニエンスストア「ファミリーマート」の協力で、紙面での「電液」による活動がスタートしました。

震災直後は「楽しい経験」が子ども達にとって必要だったことで、一方、来年3月で震災から5年がたちました。未来を担う子どもたちに、生れ育った街のよさに気付く力を養ってほしい。物事に多角的に見ることができるようになってほしい。教室はそんな願いを込めて2回実施したのです。

今後も家族、地域、企業、そしてコミュニティ放送局が一丸となるよう働きかけをしていきます。「地元力」を高め、災害に強いまちづくりに貢献したいと思えます。（つぎみ、ようこ）2児のママ、毎週金曜日の生放送に出演している、好きな学問は「コーチング」、名取でお気に入りの場所は「三塚公園」



「親子シニアト教室」を11、12月に各回計2回実施しました。企画するに当たって、2011年の東日本大震災以降に名取市で小学生向けに行われたワークショップについて調べました。すると、「ほとんどが「楽しい体験」をして、1回で終了してしまうものばかりでした。

震災直後は「楽しい経験」が子ども達にとって必要だったことで、一方、来年3月で震災から5年がたちました。未来を担う子どもたちに、生れ育った街のよさに気付く力を養ってほしい。物事に多角的に見ることができるようになってほしい。教室はそんな願いを込めて2回実施したのです。

今後も家族、地域、企業、そしてコミュニティ放送局が一丸となるよう働きかけをしていきます。「地元力」を高め、災害に強いまちづくりに貢献したいと思えます。（つぎみ、ようこ）2児のママ、毎週金曜日の生放送に出演している、好きな学問は「コーチング」、名取でお気に入りの場所は「三塚公園」



クリスマスコンサート 消滅大震災後4回目

「尚絅学院小学部」クリスマス音楽会が3日、ゆりが丘4丁目の大聖堂で開催されました。田中定寛准教授の定期独奏会という位置付けで、2011年の東日本大震災後に始まり、今年が4回目。近々、高齢者や親子連れも多く集まりました。

田中准教授はパツハの「主人の望みの喜びよ」に始まり、「金魚を演奏」アンコールに込めさらさら2曲を披露しました。軽快さや優しさ、力強さ、曲ごとに表情を変える演奏の力に、聴客は酔いしれました。

「クリスマスには豪華になる食事を楽しみに家に帰ってくる子どもを想像して聞いてほしい」とくるみ割り人形の「行進曲」はクリスマスに集まる子どもたちのわくわくした様子が描かれていきます。など曲や音楽に込める思いを紹介しながらのコンサートでした。

会場の出入口には「クリスマス」の四角い箱が置かれ、募金や音楽に対する感謝の気持ちを伝えるように、来場者が募金を入れています。集まった善意はカンボジアや孤児院、授産施設などに寄付されています。19日はバイオラルガングコンサートを開催、15、16時、入場無料（抽選子）

クリスマスコンサート
消滅大震災後4回目

「尚絅学院小学部」クリスマス音楽会が3日、ゆりが丘4丁目の大聖堂で開催されました。田中定寛准教授の定期独奏会という位置付けで、2011年の東日本大震災後に始まり、今年が4回目。近々、高齢者や親子連れも多く集まりました。

田中准教授はパツハの「主人の望みの喜びよ」に始まり、「金魚を演奏」アンコールに込めさらさら2曲を披露しました。軽快さや優しさ、力強さ、曲ごとに表情を変える演奏の力に、聴客は酔いしれました。

「クリスマスには豪華になる食事を楽しみに家に帰ってくる子どもを想像して聞いてほしい」とくるみ割り人形の「行進曲」はクリスマスに集まる子どもたちのわくわくした様子が描かれていきます。など曲や音楽に込める思いを紹介しながらのコンサートでした。

会場の出入口には「クリスマス」の四角い箱が置かれ、募金や音楽に対する感謝の気持ちを伝えるように、来場者が募金を入れています。集まった善意はカンボジアや孤児院、授産施設などに寄付されています。19日はバイオラルガングコンサートを開催、15、16時、入場無料（抽選子）

6年生から5年生に リーダー引継ぎ

リーダーになる子どもを育成する「インリーダリサーチ会」が11月28日、増田西公民館で行われました。増田西小学校8地区の5、6年生4名が参加しました。研修会はその年のリーダーを育成する手助けとして、増田西地区子ど育成会・今野幸信会長が毎年行っています。1カ月間かけて準備を進めてきました。開会式で実行委員長の挨拶を述べました。

「インリーダリ研究会に参加した5、6年生
根本悠世君（6年）が「みんなが仲良く元気に楽しみたい」とあいさつしました。子どもたちは「ツチボールやたこ焼き作り、フラスコ板でキーホルダーを作る作業を通じて、作業の進行方法を学びました。参加者は「とても楽しかった。今の5年生には、来年もこの会を引き継いでほしい」と感想を述べました。



年末のごあいさつ
今年一年間、ご愛読いただき誠にありがとうございました。来年もよろしくお願ひ致します。

朝刊は新年1月2日、夕刊は、12月29日、1月3日でもお休みさせていただきます。

「ハナモモ通信」では、皆さんからの「意見」と「感想」を情報提供をお待ちしております。イベント情報やスポ少、サークルのメンバー募集など身近な話題をお寄せください。お近くのカフェ販売所でも受け付けております。



「ハナモモ通信」では、皆さんからの「意見」と「感想」を情報提供をお待ちしております。イベント情報やスポ少、サークルのメンバー募集など身近な話題をお寄せください。お近くのカフェ販売所でも受け付けております。

☆連絡先☆
河北新報普及センター（住所）
仙台市青葉区五橋 1-1-10
227-88880
（ファクス）
hanamomo-kfc@kahoku-fc.co.jp

